



福島県南相馬市立原町第二中学校 学校だより第9号 令和4年11月29日(火)
発行者:校長 和田節子 TEL (0244)22-4188 E-mail: haramachi2-j@fcs.ed.jp

からくさ



【教育目標】 自律 探究 協働

【重点目標】 自ら行動し、経験に学ぶ生徒

☆ 東京・鎌倉・浦安を満喫しました ☆

3年生が、10月31日(月)から2泊3日で修学旅行に行ってきました。

【1日目】鎌倉班別自主研修→夜の選択コース(横浜中華街、チームラボプラネッツ TOKYO 豊洲、プラネタリア TOKYO、マクセルアクアパーク品川)→東京ガーデンパレス

【2日目】クラス別研修(1組:豊洲市場、2組:上野動物園、3組:サンシャイン水族館)→東京ディズニーシー→東京ベイ舞浜ホテル

【3日目】SMALL WORLDS TOKYO→東京スカイツリーと、盛りだくさんのコースを満喫しました。

新型コロナウイルスの感染が拡大して以来、旅行先を日光・那須方面に変更してきたので、東京方面への旅行は3年ぶりとなります。オリンピック終了後とあって、都内の景色は一変していました。残念ながら、電車に乗ったり地下鉄に乗ったりしながら目的地をめざす都内自主研修はできませんでしたが、生徒達は自分が選択した見学地で大いに楽しんでいました。

市内6校の中では最も遅く、しかもコロナ感染者が再び増え始めている時期でしたので、内心ヒヤヒヤしましたが、感染したり、させたりすることもなく、無事終了することができました。様々な制限があっても、知恵と努力で楽しむことができる。そんな思いを新たにしました修学旅行でした。



2日目の朝、ホテルの部屋を見廻ると、こんなメッセージが…。温かな心遣いを感じました。

Tokyo Bay Maihama Hotel
のみな様へ
朝食おいしかったです!
来年も原町第二中学校を
お願いいたします!

清掃の時間に非常ベル！その時、生徒達は…

11月25日（金）に、予告なしで避難訓練を行いました。ねらいは、放送をよく聞き、出火場所と避難場所を把握した上で、最適な経路を自分で考え、判断し、避難することです。24日から30日までの間に実施することだけは伝えておきましたが、まさか今日、しかも清掃の時間に非常ベルが鳴るとは思っていなかったようで、校舎にどよめきが走りました。

校庭に避難した後、体育館で自分達の避難行動を振り返りました。「非常ベルを聞いて緊張してしまった」「先生の指示がなくてもきちんと避難できた」「普段は使わない非常階段を使って避難した」「火元に近づかないように西階段を通ればよかった」など、様々な感想が出されました。消防士の方に質問している生徒もいました。

訓練の最後に次のような話をして、今年度の避難訓練を終えました。



父が残した避難ロープ

教師という仕事には必ず転勤があります。私は原町二中で10校目になりますが、その都度引っ越しをしてきました。

かれこれ30年前のことです。転勤する学校が比較的近かったので、父が小型のトラックを借りて荷物を運んでくれることになりました。引っ越し先の教員住宅に到着し、荷物を2階の部屋に運び終わると、母と私は荷物の整理に取りかかりました。父だけは、なぜか部屋の中を歩き回ったり、ベランダに出て周囲を見回したりしていました。すると、何かを思い立ったように、部屋を出て行き、トラックにくくりつけてあった荷造り用のロープをほどいて持ってきました。そして、長いロープを二重にして20~30cmほどの間隔をあげながら玉結びを作り始めました。ロープの端まで達すると、ベランダに出て、手すりからロープを垂らし、私を呼んでこう言いました。「いいか、もし火事になって逃げ場がなくなったら、こうやって手すりにロープを結び、これを伝って下まで降りるんだぞ。玉結びは滑り止めだ。」降りるときに手の皮がむけないようにと、荷物を運ぶ時に使っていた軍手も一緒に置いていってくれました。それが、このロープです。

その場にある物を使って、とっさに娘の命を守る道具を作り出した父の「生き抜く知恵」と「愛情の深さ」に感動しました。その後も幾度となく引っ越しを重ねてきましたが、荷物の中にはいつもこのロープが入っています。幸い一度も使うことはありませんでした。

父が亡くなって間もなく20年。このロープを見るたびに、父が残してくれたものの尊さをかみしめます。もう恩返しをすることはできませんが、命を大切にすること、生き抜くこと、それが最大の親孝行だと思っています。

近年、自然災害が多発しています。どうしたら自分の命を守ることができるか、どうしたら人の命も守ることができるか、皆で考えながら訓練に真剣に取り組み、生き抜く知恵と力をつけていきましょう。

